

2011年4月25日 13時47分

東京電力(株)原子力立地会議

No. 2006 P. 1

東京電力(株)

小説権所有 本店AMレクメモ

(非管理用)

(5枚)

本店レク 議事メモ

日時：平成23年4月25日（月）11:20～12:10

場所：東京電力本館1階101A日会議室

先方：記者約45名（カメラ5台）

当方：原子力設備管理部

広報部

配付資料：

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて（4月25日午前9時現在）
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果（4/24現在）
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況 他
- ・ 福島第一原子力発電所プラント関連パラメーター

質疑：

Q. 今回、1／2号機と5／6号機の電源多重化工事を実施することだが、これで1から6号機の電源が全て連携されたということか。

A. 1／2号機と3／4号機の電源は既に連携しているので、今回の工事により、1／2、3／4、5／6号機の電源が多重化されることとなる。

S Q. 本日の工事時間は。

S A. 準備は22日から始めているが、予定としてはケーブル接続工事により13～17時に窒素注入が停止すると聞いている。

Q. 作業員の線量管理について、現在は250mSvを超えないように管理していると説明しているが、別枠で管理していると以前に説明している内容について改めて説明してもらいたい。

A. 1事故における復旧作業での被ばく管理について、従来の100mSvから今回の地震対応においては、250mSvを上限に管理している。地震前であれば、年間50mSv、5年間100mSvを上限に管理していたが、今回の250mSvの件はこれとは別枠となる。

また、作業員が福島第一で復旧作業した後に、他のサイトで働く際の線量管理の方法の詳細についてはこの場では分からぬ。

Q. 被ばく線量は以前では中央センターで一括管理していたと思うが、現状はどうか。

A. 管理するシステムがダウンしているので、現在は台帳で管理している。

Q. 2号機トレチ水位について、ここ数日は横ばいであったが、これに対する評価は。

A. トレチについては、T/Bおよび地下水からの流入も考えられるが、引き続き水位の推移を注視していきたい。

Q. R/Wの水位が順調に上がってきてているが、これに対する評価は。

A. 水位の推移を見る限りでは順調に移送できていると考えられる。なお、R/W側のサブドレンへの流れ込みの兆候は確認されていない。

Q. R/Wサブドレンのサンプリング結果について、⑤のポイントのみ上がっているが、その要因はなにか。

A. 流れ込みによるものとは考えていくなく、他のサブドレンでの推移の範囲内であり、今後の推移を注視していく。

Q. 200 mSv 近い被ばく線量の作業員は現時点で作業をさせていないと以前に説明していたが、そのような作業員は何人いて、今は何をしているのか。

A. 以前に3号機のT/B内で高い線量の被ばくしてしまった3名の方については、現時点で現場の作業から外れていると聞いている。この他、当社社員などで 100 mSv を超える被ばくをしている方については、東京の本店、Jビレッジ、小名浜CCなどの作業に携わっている。

Q. 協力企業では 250mSv での管理ではなく、独自に基準を設けている会社もあると聞くが、詳細を承知しているか。

A. そのような話は承知していない。

Q. 夏場はます増す作業環境は厳しくなるが、被ばくにより熟練作業員が外れる可能性が高いなかで作業員の手配は大丈夫なのか。

A. これまでの協力企業にはご協力いただいているが、現場の線量を下げて環境を改善して長い間に作業をしていただけるようにしていきたい。

Q. 2005 年の国際会議で東電が「想定を超える津波がくる確率が 50 年以内に 10%」と報告していたとの報道があるが、事実関係は。

A. 米国での国際会議で報告したことは事実。なお、報告内容については、現在、当社では復旧作業に全力を注ぐこととしており、津波の評価にかかる経緯等については、今後、詳細に検討していく。

Q. 今回の事故復旧の作業員を韓国で手配していると聞くが、事実関係は。
A. 承知していない。

Q. メガフロートの状況はどうか。
A. 到着日程は未定。

Q. ロボットの新規導入の計画はどうか。
A. 特に聞いていない。

Q. 1号機格納容器の水位は。
A. 圧力容器ボトム部の温度に変化はないため、まだ圧力容器に達していないと思われる。

Q. 4号機使用済燃料プールの水位と水温の最新状況は。
A. 昨日 18 時の 81 度の段階から新たな情報は入っていない。

Q. 4号機使用済燃料プールの線量は墨って見えなかつたと言うことだが改善策はとっているのか。
A. 具体的な改善策は確認できていない。

Q. 武藤副社長の会見においても 2, 3号機への窒素封入は 4月中に実施することであったが、何か実施できない理由があるのか。
A. 準備している状況なので 4月中には何らかの状況をお伝えしたい。

Q. 21日の無人ヘリの画像はあるならばいただきたい。
A. 特に新しくなく、これまでと変わりのある映像ではなかつた。

Q. 映像があるならば見させていただきたい。
A. 確認させていただく。

Q. 線量が高かつた人が構外の作業に取り組んでいるとのことだが、具体的にどちらか。
A. Jビレッジや、小名浜CC、本店等で働いている。

Q. 今後の作業員の採用計画はどのように考えているのか。作業員の確保は大

丈夫なのか。工程表を守れるのか。

A. 東電として新規の採用は現時点では実施していない。

Q. 100mSv を超過した作業員で、現場を一旦離れている作業員は何人くらいいるのか。

A. 現時点での人数は把握していないが、再度入構することもあるので、流動的である。

Q. 線量マップを出すのになぜ時間がかかったのか。

A. 防護管理の課題などもあり調整に時間を要した。遅くなってしまったことについてはお詫び申し上げる。

Q. なぜ依頼をしてから1ヶ月程度もかかってしまったのか。公開することができ可能になった理由を午後の会見時に教えていただきたい。

A. 確認させていただく。

Q. 1号機格納容器の図面について、設置許可申請時の図面をいただきたい。

A. 当社の情報公開コーナーにて閲覧いただける。

Q. 圧力容器の逃がし安全弁を意図的に開けたとのことだが、詳細について確認できたことを教えていただきたい。

A. 逃がし安全弁を強制的に開けた実績はあるが、中央制御室が完全に復旧しているわけではないので、現時点で弁が開いているか閉じているか、もししくは閉じたもののしっかりと閉じていないのか等は確認できていない。

Q. 逃がし安全弁の開閉状態が確認できていないのは地震発生当初からか。

A. 電源が無くなつてからは目視で確認できていない状況である。圧力が上がれば弁が開いたと判断できる程度である。

Q. 現時点では逃がし安全弁から蒸気が出ているとしたら自動で弁が開いて出ているということか。

A. 圧が高いと自動で逃げる弁と手動で強制的に逃がすことができる弁(A.O.弁)がある。

Q. 逃がし安全弁は各号機いくつあるのか。

A. 確認させていただく。

Q. 逃がし安全弁が開いているとしたらウェットベントと同じ状況ということか。

A. 格納容器内（圧力抑制室）に逃がすもので、外部に放出するベントとは異なる。

Q. 圧力抑制室が満水だったら逃がす先はあるのか。

A. 圧力状況にもよるが、基本的には圧力抑制室側に排出されるものである。

Q. 仮設の熱交換器は空冷か、もしくは水冷か。

A. 両方の線で検討している。

以 上